



## 平成28年度南丹美術工芸パートナーズスクール事業

高校や大学等と連携し、児童がより専門的な指導を受けて作品を制作することを通して、美術に関する表現の技能の向上を図るとともに、美術工芸への興味・関心を高め、文化の継承と発展への基礎を培うことを目指して、南丹美術工芸パートナーズスクール事業を開催しています。

## 亀岡市立城西小学校 & 亀岡高等学校

9月27日（火）、城西小学校6年生49名（2クラス）が亀岡高校普通科美術工芸専攻1年生27名の生徒たちから指導を受けて、風景画に取り組みました。

始めに、教室の窓から見える山や空、建物などの下書きに色を塗っていきました。「空は青だけじゃないよ。白もあるし、他の色もあるよ。」「少し黄色を入れるといいかもね。」「水を入れるとグラデーションといってだんだん色が薄くなるので使ってみれば。」などと、高校生たちは積極的にアドバイスしていました。

小学生は「なるほど」といった表情を浮かべていました。高校生の中には実際に筆を持って色を作ったり、描く見本を見せてくれたりする姿もあり、小学生たちは色の作り方や塗り方について優しく教わり、和やかな雰囲気の中で学習が進みました。

最後は、グループで歓談する時間を持って交流し、次回（10月11日）の仕上げに向けて意欲を高めていました。



### <参加者の声>

小学生からは、「色のことを詳しく教えてくれたし、次はどうしたらいいのかアドバイスをもらえて嬉しかった。」「休み時間は絵のことだけでなく面白い話をしてくれて楽しかった。」といった感想が出ていました。

また、高校生からは「小学生と話す前、とても緊張したけど、子どもたちとできるだけフレンドリーに話をすることができた。」「色を塗る順番、空や山の描き方、自然の物と建物とではタッチを変えた方が良いことを教えることができた。」と感想を述べていました。小学生・高校生ともに楽しく学び、充実した取組になりました。



京都府中部地域（亀岡市、南丹市、京丹波町、福知山市、綾部市、京都市右京区京北）の「森の京都」には、日本の原風景が残る美山かやぶきの里や芦生の森をはじめとした豊かな自然、鮎や丹波くりや北山杉などの森の恵み、京都市中心部から約1時間と都会からも近く、人と人とのつながりがある豊かな暮らしが残る地域です。  
（京都府ホームページから）

今回紹介した「南丹美術工芸パートナーズスクール事業」で制作した作品は、10月15日（土）、16日（日）に南丹市国際交流会館で開催する京都丹波美術工芸教育展において展示します。

詳しくは、南丹教育局ホームページまで

南丹教育局ホームページ  
<http://www.kyoto-be.ne.jp/nantan-k/cms/>

南丹教育局

検索



# 南丹市立園部小学校 京都美術工芸大学

9月2日（金）、園部小学校6年生95名（3クラス）が京都美術工芸大学の7名の学生から本棚づくりを教わりました。本棚の2つの基本形が示され、子どもたちはどちらを作るかを決め製作を始めました。子どもたちは先生やお兄さん、お姉さんが板を切る技術を見て、簡単に切れている様子に感心していました。



製作が始まると、のこぎりの角度や構え方、二人で協力した方が良いところなどを丁寧にアドバイスをしてもらったり、釘打ちのコツを聞いたり、実際に釘を打ってもらったりして、短い時間にコツを覚え上達しているようでした。また、お兄さん、お姉さんに励まされて、最後まで熱心に取り組んでいました。



仕上げの段階では、切り残しの板を使って飾りを考えたりして、自分だけの本棚に仕上げたいこうと工夫する姿が見られました。

この他、9月27日（火）には、2年生児童が京都美術工芸大学の学生と一緒に「紙粘土で動物づくり」にも挑戦しました。

## <参加者の声>

小学生からは、「釘を打つと木が裂けてしまったり、板を斜めに切ったりするのは難しかった。でも足でしっかりと押さえることや手で支えることを優しくアドバイスしてくれて嬉しかった。」と徐々にコツをつかんでいる様子が見られました。

学生からも「小学生は素直。話をよく聞いてくれる。自分たちの教えたことが伝わって、作品として形になることが実感できた。」との声が聞かれました。

# 京丹波町立丹波ひかり小学校 京都美術工芸大学

9月26日（月）、丹波ひかり小学校6年生38名（2クラス）が京都美術工芸大学の学生6人からの指導を受けて、木彫の時計づくりに取り組みました。

最終回となった今回は、下書きをした檜板に彫刻刀で彫って文字盤を完成させ、色付けを行いました。子どもたちは、彫刻刀の持ち方や手の置き方に注意しながら、それぞれ思いの詰まった下書きにそって一生懸命、彫り進めました。学生たちは子どもの作業の様子を見ながら、手の止まっている場合は声をかけ、実際に彫刻刀を使って見せたりして丁寧に教えていました。

子どもたちは彫り終わった作品に色付けをして、最後にムーブメントを取り付けて時計を完成させていきました。仕上げた時の子どもたちの表情からは、充実感が感じられました。



## <参加者の声>

小学生からは、「思ったとおりの時計を作ることができた。」「文字盤の数字を彫るのが難しかったけど、丁寧に教えてもらうことができて良かった。」など、出来上がりに満足した声が聞かれました。

また、学生たちは事前にテーマやデザイン・進め方について打ち合わせを行い、手作りの説明書を作成するなど子どもたちが分かりやすいように工夫を凝らしていました。学生たちは、「自分が教えたことを子どもたちが一生懸命に取り組んでくれて嬉しい。」と話し、教える立場での苦勞と上手く教えることができた喜びを感じていました。